



日本語とエチオピアの言語の共通点

(Sidaama 語) [3]

河内一博 Kawachi Kazuhiro (防衛大学校)

「ナル型」言語の表現

池上嘉彦氏の『「する」と「なる」の言語学』(大修館書店, 1981)によると、英語は「(誰か)が(何か)をする」と事態を捉える「スル型」の言語であるのに対し、日本語は「(事態)が(このよう)になる」と捉える「ナル型」の言語であるという。Sidaama 語を見てみると、「スル型」の特徴もあるが、「ナル型」の特徴が顕著に見られる。

第一に、Sidaama 語には主語を使わない(特に動作主を表さない)表現が多く見られる。この言語では主語を名詞句で表さない場合でも、動詞の語尾等で主語の人称・数・性が示される。しかし、このような主語の標示があるにもかかわらず、主語を補うことができない表現がある。例えば、日本語のように主語を全く使わずに「洞窟を抜けるとそこは砂漠だった」と言うことができる。さらに、3人称男性の主語の標示を動詞の接尾辞に使っているにもかかわらず、主語を補うことができない非人称構文がいくつか存在する。その中でも主語を使わずに「ナル」を表す動詞 *ikk-* を使った表現がよく使われる。例えば、以下の文を「今何時ですか」という質問に対しての答えとして(変化という意味を全く含まずに)使うことができる。

t'a hones saate ikk-ino.

今 9 時 なる -3人称単数男性が / 完了

「今9時です。」

⇒文字通りには、「今9時になりました。」

他にも、動詞 *ikk-* を使い、その主語は表さずに、「私たち来月結婚することになりました」、「明日雨が降るようなことになったら…」、「合計金額は 100 ブルになります」(文字通りには、「なりました」という表現をすることができ。日本語と同じように、このような言い方しかできないというわけではないが、こういった表現を使うことが非常に多い。

第二に、Sidaama 語の形容詞は比較的次数が限られていて、感情・感覚等の特に一時的な状態を表す場合に動詞を使うのだが、このような動詞はすべて状態変化動詞であり、それぞれの動詞に「ナル」という意味要素が含まれている。例えば、

hagiid- 'become happy'

hank'- 'become angry'

wajj- 'become fearful'

daafur- 'become tired'

hudid- 'become hungry'

mug- 'become sleepy'

k'iid- 'become cold'

tuns- 'become dark'

mool- 'become dry'

duree'm- 'become rich'

などである。これらの状態変化動詞の完了形は(日本語の「疲れる」などのいくつかの動詞と同様に)過去に起こった変化および現在の状態を表し、進行形は現在起こっている状態変化の過程を表す。状態を表す場合であっても状態変化動詞による捉え方しかできないことが多いという点では、Sidaama 語は日本語よりももっと「ナル型」であると言えるかもしれない。

表紙写真について

「アドリア海の真珠」ドブロブニク

室井美稚子 Muroi Michiko (清泉女学院大学)

クロアチアと聞くと、どういう事を想起されるであろうか。若者の多くはまず「いったいどこ?」となり、中には「サッカーが強い国」と言うスポーツ通もいるだろう。一方、年配の方は「戦争のあった危ない国」というイメージが湧いてくるようだ。

チトーが束ねていたユーゴスラビアが解体して混乱し、クロアチアは1991年に独立宣言を行ったが戦闘は95年まで続いた。その間、7世紀からの長い歴史を持つドブロブニクの旧市街も爆撃によって甚大な被害を受けた。それから約20年が

経ったのだ。

このドブロブニクは、「アドリア海の真珠」と呼ばれるにふさわしく群を抜いて美しい。また、旧市街を囲む城壁は2キロ近くあり、^{やぐら}などを登ったり降りたりして歩いてまわると一周するのに半日はかかる。眼下のアドリア海の澄み切った美しさと城壁内のオレンジ色の屋根の家々を見ているだけで飽きることがない。美術館や教会だけでなく、運動コートがある学校や干し物を出した家々も目に入る。しかし、よく見ると所々の屋根は真新しく、爆撃の損傷は多

く、ようやくその傷を乗り越えようとしていることがわかる。このような昔から名をはせた観光地でも復興にかなりの時間を要するのである。

「最近ヨーロッパでベスト3の観光地はバリとベネチアとこのドブロブニクだよ」とタクシーの運転手さんはテレビの受け売りだとして話してくれたが、自慢に違わぬバルカン半島屈指の観光地である。バスは真夜中を過ぎても走っており、外見も年齢も多様な観光客が夏の夜長をのんびりと楽しんでいる。城壁の旧市街にタイムスリップしてみませんか。

